日本農業新聞
(29年11月28日)　(史)14面

農福連携へ本格始動

全国的団体・自然栽培パーティー

新潟市でタマネギ定植

就労支援、放棄地解消めざす

農業者と障害者、福祉施設の連携を強めようと、グループ「自然栽培パーティー・チームにいがた」が本格的な活動をスタートした。新潟市の福祉施設の利用者、地元農家、協力企業が、同市西蒲区の水田でタマネギ苗の植え付けを行った。水稲との二毛作への挑戦で、化学合成農薬や化学肥料、除草剤を使わずに育てる。グループは取り組みを広げ、障害者の就労支援、耕作放棄地の解消につなげていく考えだ。

タマネギ苗の定植作業に当たる参加者

自然栽培パーティーは、障害者や福祉施設の農業参入を後押しする全国的な団体だ。自然栽培に取り組み、耕作放棄地の解消を目指している。県内での活動推進のため、4月に同グループが発足した。

最初の農業生産活動として、タマネギと水稲の二毛作を選んだ。定植作業は、同市東区にある福祉施設「ファースト」の利用者、ハーブを手掛ける「農園CuRA（ちゅら）！」などが実施。新潟クボタや山篠建設、NPO法人どんぐりの杜（もり）などが協力し、総勢25人で苗を植え付けた。今後は、トンネル掛けや除草作業、溝切りなどの管理をしていく。収穫は4月下旬～5月上旬の見通しで、マルシェで消費者に直接販売したり、料理店に供給したりする。

作業に参加した内山隆史さん(42)は「自分で植えたタマネギが成長する過程を楽しみたい。収穫したらスープにして味わいたい」と話していた。

同グループの真保若葉代表は「屋外で体を動かす農業にやりがいを感じる障害者は少なくない。多くの組織とつながり、耕作放棄の解消などで地域に貢献していきたい」と将来を展望した。

就労目指し自然農業

西蒲区　福祉施設利用者が汗

障害者が休耕田や耕作放棄地で無農薬・無肥料の自然栽培農業を手掛ける取り組みが4日、新潟市西蒲区福井で始まった。同市東区の障害者福祉施設「ジェイステージ」を利用する7人がタマネギの作付けに精を出した。

県内の農業関係者らでつくる団体「自然栽培パーティー・チームにいがた」が主催した。団体は農業と福祉を結ぶ「農福連携」を通して障害者の就労を支援しており、西蒲区での活動は佐渡市に次いで2カ所目。地元の農業法人所有の休耕田3・3ヘクタールで、冬はタマネギ、夏はコメの二毛作に挑戦する。

参加者は雨が降りしきる中、「苗をどんどん持ってきて」「土は優しくかけよう」などと声を掛け合って作業を進めた。ぬかるみに苦労しつつも、1時間弱で農地は約1500本の苗でいっぱいになった。

参加した新潟市東区の飯野和也さん(25)は「来年5月の収穫が楽しみ。完成したら味を確かめたい」と話し、笑顔で土を払った。自然栽培パーティー・チームにいがたの真保若葉代表(40)は「県内の農福連携は始まったばかりだ。西蒲区での取り組みを成功させ、地域と連携しながら活動を広げたい」と抱負を語った。

休耕田でタマネギの作付けに励む参加者＝4日、新潟市西蒲区福井